



環境リスク篇

— 廃棄物・土壌・行政対応 —

✓ 片付ける前に、環境リスクを確認する



廃棄物・薬品・油を確認

処分対象物の種類や
保管状況を確認する必要があります。



検査場所の妥当性も重要

土壌調査は「やったかどうか」だけでなく、
「どこで・なぜその場所か」が問われます。



原状回復費が膨らむことも

原状回復や調査費用が、
想定を超えるケースがあります。



この資料を読む症状

— このような症状が出ていませんか? —

1

廃棄物の種類と保管状況を把握していない



2

危険廃棄物があるか分からない



3

過去の排水・油・薬品の使用履歴が気になる



4

土壌検査が必要か判断できない



5

検査場所の妥当性に不安がある



6

撤去・返還後に環境問題が出ないか心配



1つでも当てはまれば、この資料の確認対象です。



よくある誤解

— 廃棄物・土壌・行政対応 —

誤解 1

廃棄物を処理業者に渡せば終わる

処理した事実だけでなく、廃棄物の種類、委託先、搬出記録、処理証明まで残しておく必要があります。



誤解 2

工場をきれいにすれば 環境問題は残らない

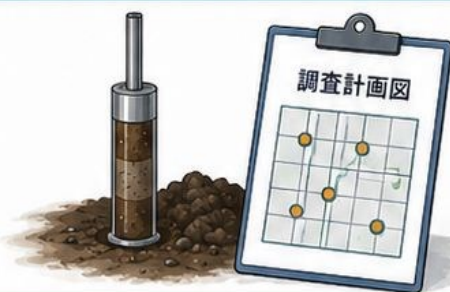
見た目が整っていても、土壌、排水、油、薬品の履歴や処理状況を説明できるとは限りません。



誤解 3

土壌検査は 言われてから考えればよい

土壌調査は、実施の有無だけでなく、どこを調べるか、なぜその位置かが重要です。



誤解 4

過去の排水・油・薬品は 今問題がなければ関係ない

撤去や返還の場面では、過去の使用履歴や保管・処理状況が後から問われることがあります。



環境リスクでは、「きれいに見える」ことより、「何をどう処理し、どこをどう確認したか」を説明できることが重要です。



放置すると起きる地雷

— 後から発覚すると、手遅れ・高コストに —

1



危険廃棄物の処理証明が残らない



2



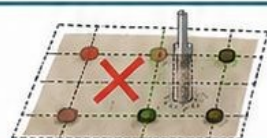
廃液・油・薬品の処理経路を説明できない



3



土壌検査の位置が不適切だと指摘される



4



過去の使用履歴を確認できない



5



原状回復後に環境問題を指摘される



6



行政確認や大家対応で手続が止まる



7



原状回復費や調査費が想定を大きく超える



環境リスクは、片付けた後に見つかりと重くなります。

撤去・返還の前に、環境上の確認が必要なものが残っていないかを見ることが重要です。



まず確認すること

1



廃棄物の種類

一般廃棄物、産業廃棄物、危険廃棄物、
廃液、油、薬品、塗料

2



保管状況

保管場所、数量、容器、ラベル、
漏洩の有無、写真記録

3



処理証憑

委託契約、処理業者情報、搬出記録、
処理証明、発票

4



過去の使用履歴

排水、油、薬品、塗装、メッキ、洗浄、
地下タンク

5



土壌・排水関係

土壌検査、排水記録、環境測定、
ボーリング位置の妥当性

6



関係者確認

設備、環境安全、総務、大家、
処理業者、専門家、行政窓口



環境リスクは、現場・証憑・過去履歴・検査位置をつなげて確認することが重要です。



撤去・返還前に確認する順番

1



現場を確認する

廃棄物、廃液、油、薬品、保管場所を確認する



2



過去の使用履歴を確認する

排水、薬品、油、塗装、メッキ、洗浄などの履歴を見る



3

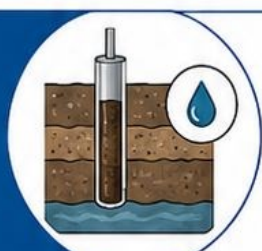


処理証憑を確認する

委託契約、処理証明、搬出記録、発票を確認する



4



土壌・排水の要否と 検査場所を確認する

検査の要否だけでなく、
どこを、なぜその位置で調べるかを確認する



5



記録を残してから撤去・返還する

写真、リスト、確認書、検査資料を残す



環境対応では、「処理したか」だけでなく、
「何を、どこで、誰が、どの証拠で処理したか」が問われます。



実務チェックリスト

— 廃棄物・土壌・行政対応 —

- ☐ 廃棄物の種類を確認したか
- ☐ 危険廃棄物の有無を確認したか
- ☐ 廃液・油・薬品の保管状況を確認したか
- ☐ 保管場所、数量、容器、ラベルを記録したか
- ☐ 処理業者との契約・資格を確認したか
- ☐ 搬出記録、処理証明、発票を確認したか
- ☐ 過去の排水、油、薬品、塗装、メッキ履歴を確認したか
- ☐ 土壌検査や排水確認の要否を確認したか
- ☐ ボーリング位置の妥当性を確認したか
- ☐ 大家や行政との確認事項を整理したか
- ☐ 撤去・返還前の写真を残したか
- ☐ 環境リスクを後回しにしていないか

☐ が多いほど、環境リスク対応の再確認が必要です。



まとめ・関連資料・免責

1 まとめ

環境リスクは、工場をきれいに片付ければ終わる問題ではありません。廃棄物、廃液、油、薬品、処理証憑、過去の使用履歴、土壌・排水の状態を確認し、後から説明できる資料を残す必要があります。土壌調査は、実施したかどうかだけでなく、どこを、なぜその場所で調べたかも重要です。撤去や返還の後に環境問題が見つかったら、追加調査、追加費用、行政対応につながる可能性があります。



2 関連資料



3 免責

本資料は、中国現地法人の再編・整理に関する一般的な実務上の注意点を整理したものです。個別案件の法務・税務・労務・海関・環境判断については、弁護士、会計士、環境専門家、その他専門家にご確認ください。

